

地域と連携した教育活動の取組

北海道浦河高等学校教諭 佐藤 友洋

1 取り組むきっかけ

本校に通学する生徒は、様似町・浦河町などの日高東部の地域から通学しており、地域柄、地震・津波・風雪害等の多様な災害に見舞われることが想定されています。しかし、生徒たちの防災・減災についての知識は浅い部分も多く、地域人材を育成する役割を担う本校として地域防災リーダーを育成する必要があると考えたためです。また、本校卒業後すぐに地元で就労したり、大学卒業後にUターンで地元に戻り就労する生徒もいることから、地域の観光事業を切り口に地域の産業理解や活性化の方策を考えることが重要と考え実施しました。

2 取組を通じて達成したこと、嬉しかったこと

本授業を通じて、生徒の進路実現が図れたことです。例えば、防災に関する授業を通じて、地元で公務員として、防災・減災に関わりたいと考えるようになった生徒が、実際の採用面接でも本授業について話し合格をいただくとともに、現在、役場の防災担当となっていることはとても嬉しく思っています。

3 取組を進める上で、苦労したこと

全体の授業デザインを構成するまでが大変でした。本授業の柱は「防災」と「観光」ですが、どちらも重要なテーマですので、力点や時期・期間などについて、毎年検討を重ねています。おかげさまで、外部との連携については、日高振興局を始め日高東部消防組合浦河消防署など、多くの方達が非常に協力的ですので、外部との連携には苦労はありません。

4 取組を進める上で、心がけていること

最新の知識や技術について、自分自身が研鑽を積むのを忘れないことです。防災にせよ、観光振興にせよ、日々、進化を遂げており授業者自身が常に意識的に勉強を重ねることで、生徒により良い学びの機会が与えられると考えるからです。また、生徒には、なるべくプロフェッショナルに触れる機会を持たせたいと考えています。それは、単に新しく、正確な知識・技術を持っているというだけではなく、仕事に取り組む姿勢（例えば、気象台職員がどのような想いで仕事に取り組んでいるか）を学ぶことは、より良い就労感の育成にも繋がると考えているからです。

5 今後の取組

今後も、生徒に体験的な学習機会を多く提供し、「世界に誇る北海道人」の育成に努めたいと考えています。今年度は、観光振興の授業内でエントリーした「北海道移住促進事業」において北海道新聞社賞をいただくことができました。次年度も外部評価を得る機会があれば積極的に挑戦していきたいと考えています。